

「この人 66」

栗倉健二 72歳 神奈川県

編集部 俳句を始められたのは？

栗 倉 二〇一二年頃から始めました。詩を書きたくて写生を旨とする俳句から基本を学びたいと思ったのです。

編集部 滑稽俳句を始められたきっかけは？

栗 倉 インターネットをサーフィン中に、ピカッと出会って、「好きだ！」と感じました。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

栗 倉 書いても読んでも楽しいことです。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

栗 倉 人の世にあることなれば、当然、ワビ、サビばかりでなく、「滑稽」もあるべきものと思います。

編集部 滑稽俳句を始めてよかったことは？

栗 倉 楽しく集中する時間を持てるようになったことですね。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

栗 倉 そのコツを、これからボチボチ学ぼうとしているところです。

【代表句】

足だけが別の生き物冬のミニ
高飛び込み人間が降る水の音
土煙りあおるドジョウの尾のうちわ
除夜の鐘下向いて聞くスマホ病
応援の声だけ投げる雪合戦